

《カトリック大和高田教会 お知らせ》 2025 年 5 月 18 日

典 礼 暦	日 時 など	
復活節第 5 主日	5月18日（日） ロザリオ	8：00
	ミサ	8：30
	5月22日（木） ミサ	10：30
	5月24日（土） ミサ	8：00
復活節第 6 主日	5月25日（日） ロザリオ	8：00
	ミサ	8：30
	5月29日（木） ミサ	10：30
	6月 1日（土） ミサ	8：00

【バチカン／中央協議会】

★午後 7 時 13 分(日本時間 9 日午前 2 時 13 分)、サンピエトロ大聖堂バルコニーにドミニク・マンベルティ枢機卿が現れ、新教皇選出を告げました。その後、午前 7 時 23 分（日本時間 9 日午前 2 時 23 分）ロバート・フランシス・プレヴォスト枢機卿（初の北米大陸出身の教皇）が現れました。新教皇はレオ 14 世を名乗りました。

【中央協議会】

◎「カトリックジャパンニュース」がスタートしました。

休刊になった「カトリック新聞」に代わり、カトリック教会に関するインターネットで閲覧する「カトリックジャパンニュース」が始まりました。「カトリックジャパンニュース」で配信された記事のダイジェスト版として、紙媒体「カトリックジャパンダイジェスト」も月 1 回（毎月第 1 日曜日）、全国の教会などに無償で配送されます。

【京都司教区】

◎京都教区カトリック正義と平和協議会・学習会

テーマ：台湾と沖縄帝国の狭間からの問い

日 時：2025 年 5 月 31 日（土）14：00～17：00

場 所：河原町カトリック会館・地下 2 階大ホール

講 師：駒込武さん（京都大学大学院教育学研究科教授）

【奈良ブロック】

◎2025 年度「聖書を学ぶ会」一テーマ「希望の巡礼者の聖年」一

回	日 時	会 場	講師／「サブテーマ」
①	終了	奈良教会	大塚喜直司教(京都司教区)
②	5 月 31 日(土) 10：30～12：00	大和八木 教会	中川博道神父(カルメル会)／ 「希望のしるし」
③	6 月 21 日(土) 10：30～12：00	大和八木 教会	奥村豊神父(京都司教区)／ 「希望に錨を下ろして」
④	7 月 12 日(土) 10：30～12：00	奈良教会	英隆一朗神父（イエズス会）／ 「希望をあかしして生きる」

【大和高田教会】

◎本日(5 月 18 日)ミサ後、小教区評議会を開催いたします。

◎{訃報} K・Mさんが 5 月 9 日、お亡くなりになりました。
ご冥福をお祈りいたします。

◎「聖書の分かち合い」(Sr. ローマ)：5 月 22 日(木)ミサ後

◆ 教会掃除当番

5 月 24 日（土） 9 時～ ：C 地区

6 月 1 日（日） ミサ後 ：奉仕日（全員）

本日の聖歌

入祭	典	1 4 7	天は神の 栄光を語り	奉納	典	3 2 1	いつくしみと愛
答唱	プ			拝領	典	1 2 8	主を仰ぎ見て
アレ ルヤ	プ			閉祭	平	9 5	アレルヤ 豊かな愛を

【典：典礼聖歌、聖：カトリック聖歌集、平：平和を祈ろう、プ：プリント】

5月18日 復活節第5主日 ヨハネ13章31～35節 イエスの与える新しい掟

今週はヨハネの福音から、イエスの言葉です。ヨハネの福音はイエスの説教が中心ですが、この箇所は最後の晩さんの際に語られた言葉とされています。復活節なのに最後の晩さんの場面が読まれるのは時間的に逆行しているように思いますが、イエスの遺言ともいえるこのみことばを、復活を体験した弟子たちの立場で味わうことによって、より身近に感じられるのではないのでしょうか。

これが最後の晩さんのときの出来事であることは、ユダが出て行ったことからわかります。彼はイエスを売るために出ていきました。吉田戦車さんの漫画に、保育園の聖劇のタイトルが「ユダの裏切り」で保護者さんたちが引く、というのがありましたが、これがイエスの受難の始まりであったわけです。しかし、イエスは「人の子（イエス）は栄光を受けた、神も人の子によって栄光をお受けになった」と言われます。なぜユダが出て行ったあとにそう言われたのでしょうか。

「栄光」というと、晴れやかで名誉な状態を思い起こしますが、このあとイエスは最もみじめな姿を表されるのです。しかし、ここでの「栄光」は「本来の姿が輝く」という意味で使われているそうです。ということは、イエスが十字架につけられる姿が救い主の本来の姿であるということになります。つまり、すべての人を救うために犠牲となる愛の姿こそが栄光の姿であるということです。

そしてイエスは「わたしがあなたがたを愛したように、たがいに愛し合いなさい」という掟を与えられます。掟というと義務に縛られるような印象がありますが、イスラエルの民にとって掟、つまり律法は、神に対する最大の信仰と忠実を表すためのものでした。ユダヤ人であった弟子たちに、イエスは旧約の掟に代わるものとしてこれを守りなさい、と教えられたのでしょうか。

イエスのこの掟は、この前の箇所にある「わたしがあなたがたの足を洗ったのだから、互いに足を洗い合わなければならない」という言葉と重なります。イエスは弟子の足を洗うことによって、へりくだって愛の奉仕を行う姿を示されました。それはまた、すべての人の罪をあがなうために十字架上で命をささげるという究極の愛の姿へとつながります。そこに神の栄光が表れるということなのです。

そのような計り知れないイエスの愛に、わたしたちはどのように応えるべきでしょうか。わたしたちの罪はたびたび神に対する借金にたとえられます。イエスは受難によってわたしたちすべての人類の借金を肩代わりしてくださいました。わたしたちも隣人を愛することによって少しずつイエスに借りを返すことができます。なぜなら、イエスが愛しておられる隣人を愛することがイエスの望みであるからです。そしてすべての借金を返し終わったときに世の終わり、つまり神の国が来るのです。

(柳本神父)